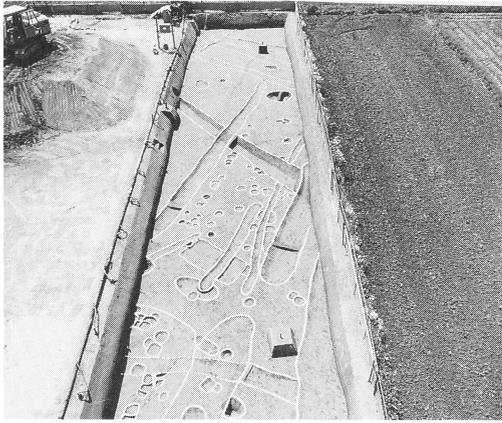


にし じょう めん
西 上 免 遺 跡

調査の概要

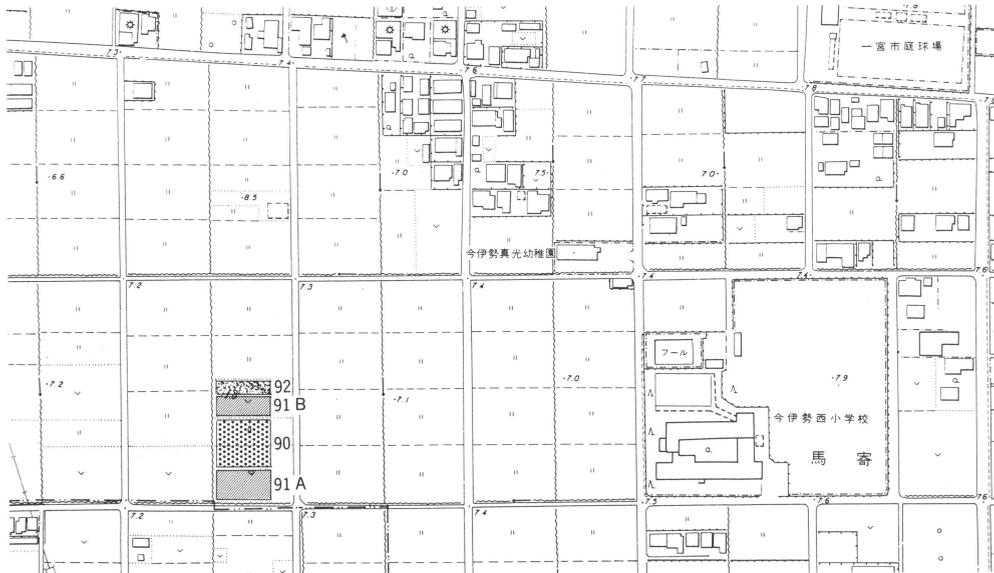
西上免遺跡は弥生時代から鎌倉時代の遺物散布地(県遺跡番号0701)として登録されている。行政的には一宮市今伊勢町馬寄および尾西市開明に所在する。90年度から調査が行われ、弥生中期から室町時代にかけての溝・土坑などの遺構が検出された。今年度も、1992年4～5月にかけて東海北陸自動車道建設予定地内で実施し、調査区は昨年度調査区の北側260㎡を調査した。

今年度の調査では出土遺物が少なく遺構も希薄で、遺跡の北辺部分に相当すると考えら

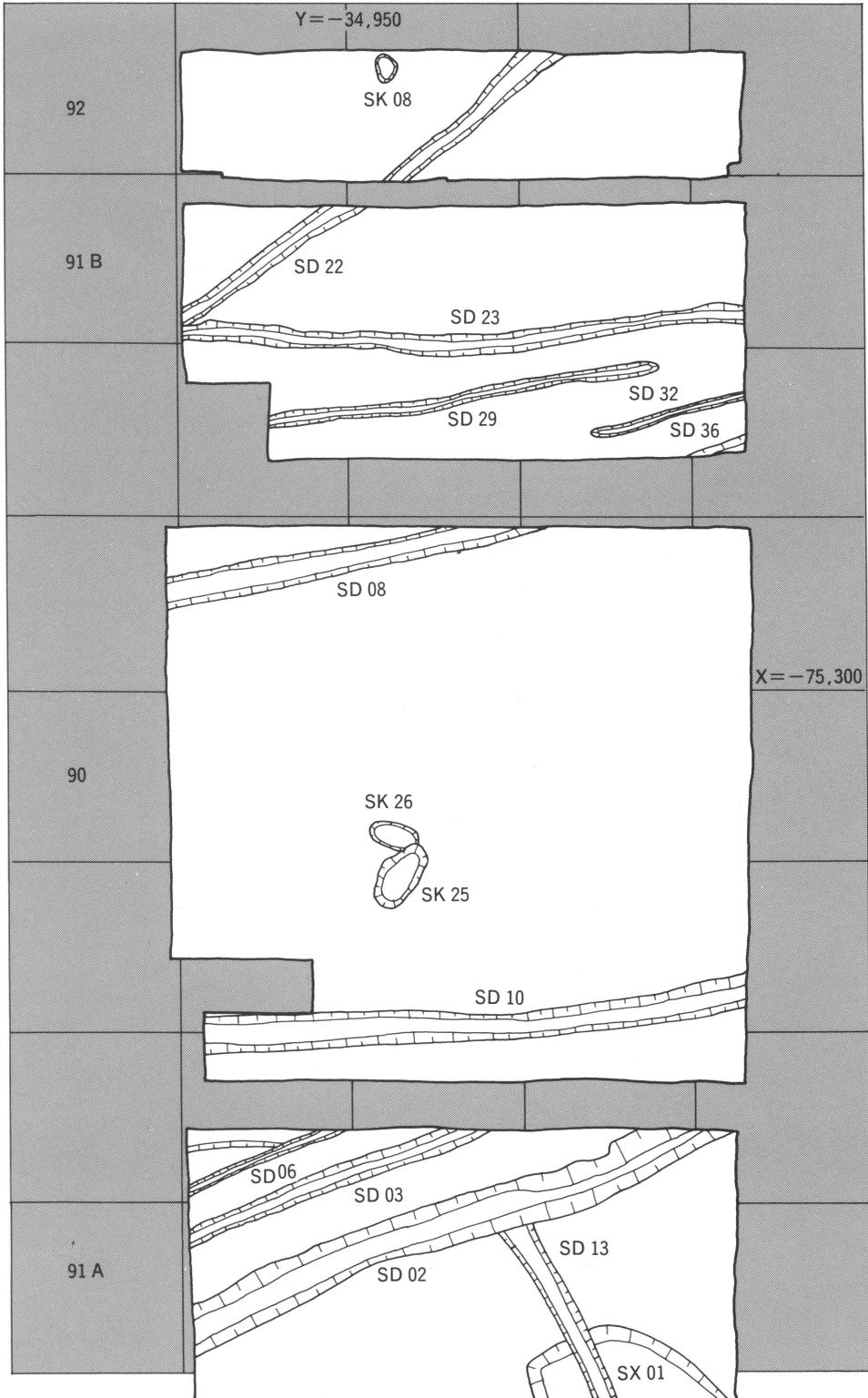


れる。今年度検出された遺構は、北東から南西に走る奈良時代の溝1条、鎌倉時代の溝・土坑が若干、室町時代の土坑7基である。昨年度までの調査では弥生時代中期から古墳初頭にかけての遺構が検出されたが、今年度の調査ではほとんど確認することができなかった。この時期の遺跡の主体は、今年度の調査地点より南方に存在すると考えられる。

(太田芳巳)



第1図 調査区位置図 (1:5000)



第2図 弥生～奈良期遺構配置図 (1:400)